

都筑幸美さん(信州おしなごの会)が、越谷市の広報誌のコラム「絆」で、「お手玉を通して広がる第2弾の絆」として紹介されました。

都筑幸美さん越谷市の広報誌で紹介される。

「お手玉を通して広がる第2の絆」 ぬくもりを届けたい手から心への真実。

日本のお手玉の会の会員の都筑幸美さん(信州おしなごの会)が、越谷市の広報誌のコラム「絆」で、「お手玉を通して広がる第2弾の絆」として紹介されました。



●日本のお手玉の会会員の都筑さんが越谷市へ移転居住。お手玉活動を紹介。越谷市の広報誌「こしがや」より

たので覚悟は出来ていました。逆に、早くこつちに來てなじみたかったです。」

2カ月後の6月には、広報誌で見つけた手品サークルに入った。松本で子どもや高齢者にお手玉を教えていた経験を活かしたいと、越谷市社会福祉協議会に相談し、7月から毎週木曜日に水辺のまちづくり館で行う『親子のふれあいひろば』のボランティアに参加。現在では、南越谷地区センターの『放課後教室』でもお手玉を教え、松本での地域活動も続けている。

本格的にお手玉を始めたのは60歳から。腕前はかなりのもので『日本のお手玉の会』の認定段位も持っている。何事も前向きに考えるプラス思考がモットー。『越谷でも、

越谷でも、

お手玉遊びで、子どもたちや若いお母さんと遊べる。こんなラッキーなことはない。お手玉を広めたいという気持ちが出会いを生み、越谷レイクタウンふるさとプロジェクトにも参加。新しい人間関係がさらに広がる。

『お手玉は、人と人とのふれあいを助けてくれる魔法のアイテム。大勢の方にお手玉を広めていきたい』と都筑さんは語る。(平成25年1月1日号)

都筑さんは、「私のお手玉の原点は、信州おしなごの会の篠田敬子会長はじめ会員のみなさんとの出会いです。そして、日本のお手玉の会の大会や講習会への参加や情報提供で、勉強させていただいています。」と話しています。(お手玉の会)